

海外安全対策情報（2020年4月～6月）

1 当地の情勢についての主な注意点

世界的に感染が継続している新型コロナウイルスについては、6月末までの当地における感染者数は25、390人となっている（イスラエル保健省発表）。感染者数の推移については、4月初旬のピーク時に1日の感染者数が700人以上となったが、その後、3月中旬から実施された外出制限等の感染防止措置により、5月の1日の感染者数はおおむね100人以下に減少した。しかし、5月下旬以降、1日の感染者数が上昇傾向にあり、6月末時点で1日の感染者数は700人以上となった。6月末現在、国内の外出制限は基本的に実施されていないものの（感染陽性者及び濃厚接触者等の一部対象者を除く）、マスクの着用、他者との社会的距離の確保といった感染防止措置は継続されている。

6月末現在、イスラエルへの外国人の入国については、感染拡大防止措置として一部の例外を除き原則認められていない。

また、パレスチナ（ヨルダン川西岸地区及びガザ地区）においても、感染者数は6月末時点で2、765名であり、パレスチナ全土で緊急事態宣言が発令されている。

【参考情報】

（イスラエル保健省）

英語

<https://govextra.gov.il/ministry-of-health/corona/corona-virus-en/>

ヘブライ語

<https://govextra.gov.il/ministry-of-health/corona/corona-virus/>

<https://t.me/s/MOHreport>

（新型コロナウイルスに関する当館から発出したこれまでの情報提供）

https://www.israel.emb-japan.go.jp/itpr_ja/corona_jouhou.html

上記の新型コロナ関連以外にも、当地では政治的要因等により治安情勢が突如悪化する可能性があるため、適当な安全対策を常に心がけ、特に以下の内容については留意する。

（1）当地においては、ガザ地区、レバノン領及びシリア領内からロケット弾等が飛来する可能性があることを考慮し、空襲サイレン吹鳴時におけるシェルターへの避難等、緊急時の速やかな対応を常に意識する。

（2）イスラエル人とパレスチナ人との間の緊張は継続しており、エルサレム旧市街、東エルサレム、ヨルダン川西岸地区（以下「西岸地区」）において、パレスチナ人によるイスラエル人（治安機関を含む）に対する襲撃事案等及びこれに対するイスラエル治安機関による事態制圧・逮捕事案が引き続き発生している。こうした状況を踏まえ、自身の所在地、訪問先の治安情勢については常に注意を払い、異変を感じた場合にはその場から直ちに離れることを心がける。

(3) 毎週金曜日、イスラム教徒による大規模な集団礼拝（金曜礼拝）が行われる正午以降の時間帯においては、モスク周辺地区への滞在・移動について特に注意が必要。

(4) その他、一般犯罪についても、イスラエル国家警察の統計によると、2019年の当国での犯罪発生件数は301、168件であり、人口比での犯罪発生の頻度は日本の約5倍に上っている。当地滞在中は、海外に滞在していることを意識しつつ、日頃の注意が必要。

※ 更に詳細な安全対策等については、大使館HPに掲載の「安全の手引き」等の安全情報を参照。

URL: https://www.israel.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000056.html

2 最近の被害者等を伴う主な事案の発生状況

(1) テルアビブ及びその周辺

4月27日、テルアビブ中部のミグダル・ツァメレット（Migdal Tzameret）地区のマンション駐車場内にて、爆発物が設置された車両が発見され、警察の爆発物処理班が現場対応した。犯罪組織同士の抗争の一部とみられ、爆発物は警察により解体された。

6月5日、アシュドット市内にて爆発物が設置された車両が発見され、警察の爆発物処理班が現場対応した。犯罪組織同士の抗争の一部とみられ、爆発物は警察により解体された。

(2) ガザ地区及び同地区周辺

従来からイスラエルとの境界付近で、パレスチナ人による抗議デモや焼夷弾／風船、ロケット弾等の飛来が発生しており、それらに対しイスラエル軍が反撃する事態がたびたび発生している。

(3) エルサレム旧市街、東エルサレム、西岸地区

4月7日、ヘブロン（Hebron）北東部のアシュ・シュユーフ（Ash-Shuyukh）にて、イスラエル治安部隊とイスラエル入植者とパレスチナ人の衝突が発生し、パレスチナ人数名が死傷した。

4月22日、東エルサレムのコンテナ（Container）検問所にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に車両で突入した後、車両を降りて刃物で襲撃した。イスラエル治安部の1名が負傷し、犯人1名が射殺された。

5月12日、ラマッラ南西部（のカランディア（Qalandiya）検問所にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に刃物で襲いかかろうとした。イスラエル治安部隊に負傷者は無く、犯人1名が銃で撃たれ負傷した。

5月12日、ジェニン（Jenin）西部のYa'bad（ヤーバドゥー）にて、イスラエル治安部隊とパレスチナ人の衝突が発生し、イスラエル治安部隊1人が死亡した。

5月13日、ヘブロン（Hebron）南西部のファウワール（Fawwar）難民キャンプにて、イスラエル治安部隊とパレスチナ人の衝突が発生し、パレスチナ人1名が死亡、4人が負傷した。

5月14日、ヘブロン（Hebron）西部のネゴホ（Negoh）にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に車両で突入した。イスラエル治安部の1名が負傷し、犯人1名を射殺された。

5月25日、エルサレム西部のジャベル・ムカベル（Jabel Mukaber）付近にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に刃物で襲撃した。イスラエル治安部隊の1名が負傷し、犯人1名が射殺された。

5月29日、ラマッラ（Ramallah）北西部のハラミッシュ（Hallamish）にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に車両で突入した。イスラエル治安部に負傷者は無く、犯人1名が射殺された。

5月30日、エルサレム旧市街のライオン門（Lion's Gate）付近にて、イスラエル治安部隊が自閉症のパレスチナ人に発砲し、同人は射殺された。また、6月8日、エルサレム旧市街のヘロデ門（Herod's Gate）にて、抗議集会が行われ、イスラエル治安部隊により多数のパレスチナ人が逮捕された。

6月8日、エルサレム北部のウジ・ナルキス橋（Uzi Narkis Bridge）にて、イスラエル人がイスラエル治安部隊に車両で突入した。イスラエル治安部隊の2名が負傷し、犯人車両は現場から逃走した。

6月23日、東エルサレムのアブ・ディス（Abu Dis）検問所にて、パレスチナ人がイスラエル治安部隊に車両で突入した。イスラエル治安部隊の1名が負傷し、犯人1名が射殺された。

3 テロ・殺人・誘拐等凶悪事件による邦人被害発生状況
邦人被害の報告はない。

4 対日感情
基本的に良好であり、特段の変化は見られない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

上記の状況であるので、各企業・団体においては、不測の事態に備え、緊急対応や連絡体制の整備及び維持・管理を日頃より継続的に行う必要がある。また、出張者等が当地を訪問する場合は、短期間であっても「たびレジ」への登録を行う。

6 大使館で実施した、邦人安全対策のための具体的措置

大使館からの情報提供（在留する全ての邦人対象）

- (1) ヤッフォ市内における抗議デモに関する注意喚起 6/14
- (2) イスラエル・パレスチナにおける注意喚起 6/25
- (3) 新型コロナウイルス関連情報提供：8件